



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN
TAJIMA

開卷驚奇俠客傳第四集卷之二

東都曲亭主人編次

第三十三回 姑摩姫莎庭ふ四賊と斬る

復一郎後門ふ石技を逞ぞ

閣客詰紹主説楠姑摩姫へ娘母縫殿が卒哭忌の追薦の與ふ。如意室珠院へ詣る。
 そち折從父女弟楠苦子子が痘瘡と患ふ。玄の趣及ひ八字生來と憶せり。知つて宿所あ
 かづたる夜夫人定の鐘の响く時候獨臥房ふ入りゆる。折り、庭鳴く虫の音ふ忽然とて
 殺氣あり。姑摩姫枕を歌て怪しや。今宵の要をあらむ。と笑ひぬ。毫も鬧金。更入廄る。キモ
 寝も睡り。小雪落時も由断せざる。却這段。第二集卷の四の尾ふあれば。看官未知なり。と
 車て這里不復せん。約束の間。五十梶電次隆光们が事及長總と衿笠小夜一郎と木綿張
 荷二郎們が事の顛末を解め分合ひ。よそ其頭の趣を這那とす。具ふして。更ふ又

第三集の四の巻の尾續ぐ。看官前後を照すアタリ。間詰除敵。余程姑麻姫。臥外心配る。夜既子二刻さん。后時候殺氣盛む。かがうちも置れき身を起して帶引結び裙短ふ。結膝し。枕邊る。護身刀を腰ふ。帶て獨情。地ふ書院。縁頬ふ立ゆ。雨戸一枚開ひ。庭草履と搔撈る。穴牙拾う。けり板金剛の一雌。屢石の上ふあり。鳥夜も白く細う。脚指頭ふ引穿て。徐ふ出で。前栽の樹の蔭假山の影までも。迷走隈をうち巡る程ふ。忽地庭門の外面ふ人あそ。鉤索をうち掛る。がやく。牆を乗り下り立て潜る。二人あつけ。是則別入る。初五十槌隆光遣す。那念珠七と蚤介。姑麻姫の星光よ。そくも足透て見。原來那奴們の倫兌さん。ひたつけ。捕らへ。闇氣色も。書院の方ふ退ひて。樹蔭ふ立す。等程ふ件。念珠七蚤と蚤介。思ひ。送は耳を。其處を領ひ。惧ふ檐下ふ身を寄て。内の虚実を知ん。と。隼と。み。ひづく。と。が。と。ひづく。と。め。の。ま。と。よ。び。ら。雨戸小耳を傾る。背後ふ烈火。女子一聲耳癖者等と喰挾られて駭矣。二賊の周章。

松小殘の雪ある。星光も白妙。面影ひ那姑麻姫さん。思へ不覚。胆落。三分の鬼胎。然ばと逃る。脱ふせど。とぬひ。そく。左右ふ別々歩快。聲も合せ。抜歎ふ。砍を。找ひ刃の光。姑麻姫の小松を指ふ。遣違へ。引外。見。晃りと引抜く短刀。卷の牙を見。届き。空轂さ。念珠七。猫見よ。鼠の断末魔。胸と刺れて仰す。仆と。息が絶。の。ま。す。け。蚤介。れふ。之。憚て。吐嗟と。う。一足飛ふ。逃る。姑麻姫透へ。十歩も走らせ。丁と。撃た。銃銳ひ。鳥夜も。狂。修煉の短刀。快と。宛龍火の如く。閃く。程ふ。蚤介。背うちと。曾前。を。鎧際迫て。轂。串れて。身と反ら。苦と叫ぶ聲も。引。死。姑麻姫の隣。既に。鮮血を拭ひ。靴ふ。收め。舊の斧から来て。初。斃。一。個の。賊。の。手。搔撈。起。残酷。窮所を刺れ。身が。冷て。氣息。悲。小の。小賊。们。ふ。牛の。刀。用ひ。過。突。放せ。又倒す。天明て。後。安次。们。かれの。よ。告。知せ。只。肩も。梢。手。を。侵

内ばかり入る折淨を盤より柄杓を携りて來て父の西二番汲み食す水と心長閑く沃樹傍、縁頬より巾架の毛拭りを両手を拭ふ女俠の沈勇兩戸をもじ引合て転て臥房に入る程ふ多く深る夜と共ふ幽きうつ枕方の燈火を搔起して破る衣裳を熟視する幸宗と血あ流り寝脱も更る不及まじてぬでび枕小就くると知る力の絶てありけり候うけれど姑麿姫の名もねむれあらうる又偷兒の入る事あらん今奮必滅康を負ひて生拘そそ其支當黒の根とよ断わる所をちう。あの件の下近く潜入する癖者ゆり是則別人すも兇惡血氣の後生うは五十槌雷九郎隆成へ然ば件の隆成へ曾反鼠坊八が先もそ。這八九の莊院の屏を衆う内に入ふ案内知るるえが庭門より兩折戸の栓札を推破る程ふ後れて屏を衆る鼠坊八を等ふも性急小功成會する癖あれ。我快暗號を做さむと思ふ心の日生光を庭門より今とぞ侵潜近づ書院の内よ。

忽地因りと歩ひのち。隆成吐嗟と歩を駐め。薄闇裡ふ透一見れ。疑へもあらず女子。原来那奴ハ姑麿姫。今宵の事を知れ。疾速莫那奴一個。首今这里を結果。餘へ怕すも足らず。目不物見せん。大胆無敵の壯不尋思も火速の進退何々毫も礙議を定む。走り裏を援きる。刃の鳥夜の電光と烈しく轟き。姑麿姫。うろるる。と鬪潜り。又鬪潜る至妙の栗姚仙。佛稀世の劍術。何人かと敵を定む。况暴惡非類の兇賊。悍と云ふも邪と以正不撓寇の云け昌。隆成ハ口に醉る。如く轟き。大方取次ふるまで。破れも破れも拂へど。拂難。陽炎の立たぬて定め。前伏と以へ後ふ在り。這那とく袋番。惱されてぞ立瞑む。眼と睁りと氣を激して。又踏入て轟き。姑麿姫。身をもとて短刀をも。轟き。右の巻を破り。打られ。痛林床堪さ。テ。刃を夏哩と落したる。隆成慌て掩添の小刀を抜く。と。立眞。眼と睁りと氣を激して。又踏ある。刃を手に。食抗て。片々薙所の大刀風。効半ね。隆成が。轟き。首が潰る。鮮血と共に滾げ。浩然の鼠坊八。稍庭門より潜入。既ふ近着く書院の頭。敵ありとかがく。挑撃如く。やう。

さてハと
原来事を知れ。欲と速く精と毫も猶豫せ。先に找し隆成と數せ。星明夜がゆ。
星を便り。手縄歩く。引提なづ。朴刀と抜散り。走寄る。目前に晃光く敵の刃と。鼠坊ハ丁と受
流して。西三合戦ひ。余程か姑麿姫。腰に帶え短刀を抜く。身を瞬間に一個の賊の頭轟轟落
せ。折る。又後方より走薙れる賊。知れど之は慌る色き。左へ踵と旋と。械もあ血刀と
や。ミス。不方ひ。ひかわ。
鳥夜の炎火と内を勢じ當る。うもあすり。鼠坊ハ辛う。僅に挑戦する。素より是劍
羨う。ぢよ。あひて。
俠女子の敵。ひふ足りぬ。死地に入れる。劍。身を露路に先立。浮世の夢。野観観。死。
牡鹿の角の束。間。痛癪四五を所負ふ。餘をひき。引外と。庭門投て逃走。姑麿姫。角
脱さ。と趕撫り。背。韓竹割。砍伏せ。けり。這時も。假山。高麗結繕草。鳴。禽
音。ひづく。和。殺氣。立。姑麿姫。耳と傾げ。今ハ。も。這奴们。が。支黨の又潛
入。そ立。躰れ。あ。ゆ。下。夜。深。ゆ。と。うち。仰ぐ。天晴。耳。一。許多。星。稍久く。眺。眉と頻
り。思。す。怪び。今。も。ア。賊星。女宿。犯。姑麿姫。頭領。う。の。みど。あり。そ。ま。下。せ
り。

こぬすひと。ころ。日暮ち。うるる。
小嘩囉。ふ。這方の虚実と張覗。見を遣した。あ。あ。あ。欲。倘。うん。余程も。衆賊の打入る
とも。あ。べ。只。一方。よ。あ。り。の。ね。が。幾十人。あ。き。も。我單身を對治せん。と。か。ても。あ。く。前
後の門より。稠。い。安次門。ハ。不意と。轂。され。防禦ふ。便りと。失。じ。せ。告。知。せ。ば。あ。く。既
尋思。と。あ。ろ。一。提。る。血。刀。と。屍。骸。の。邊。投。棄。て。書院。よ。か。入。へ。ん。と。も。る。ふ。兩。戸。の。開。を
た。處。よう。指。燭。と。外。面。か。差。出。て。看。み。の。あ。り。と。誰。や。と。向。へ。ば。垣。衣。そ。遠。く。外。お。先。却。姑麿
姫。ふ。宣。示。を。う。か。次。の。間。ふ。臥。す。出。き。め。り。と。知。づ。一。ふ。窓。打。風。お。放。馬。され。お。臥。房。の。這。方。の。隔
ま。ひ。う。
亮の。用。れ。て。あ。れ。れ。火。光。の。刺。を。よ。心。つ。た。て。不。あ。く。せ。ふ。う。ま。ま。と。見。淨。み。ゆ。と。思。ひ。く。が。遠。く
あ。そ。く。の。う。う。
指。燭。ち。と。廁。と。索。ひ。ま。わ。ふ。那。里。虫。ア。え。を。あ。が。心。安。く。ね。復。一。郎。が。子。舎。の。戸。と。敲
て。焦。き。と。告。知。し。と。る。那。這。と。うち。巡。そ。方。僅。這。里。ま。わ。り。ふ。兩。戸。一。枚。用。を。あ。が。且。警。戒
う。ぶ。う。り。ふ。ん。と。か。も。ど。う。と。の。う。
且。訴。り。て。倘。お。庭。出。き。め。り。欲。と。思。ふ。折。る。外。面。よ。還。を。あ。不。安。堵。侍。什。麼。賤。妾。と。が。俱
一。ゆ。で。小。夜。更。う。お。お。庭。獨。お。き。め。り。故。あ。う。お。け。よ。と。向。へ。ば。姑。麿。姫。微。笑。て。否。然。ま。ざ。ゆ

ああむねと安次もあらぬゆく準備をすと坐りうる。お折俱は听ねがと答へて侵在づける程か。隅屋復一郎安次は垣衣を喰覺されて訝り立つて遠く起て身を縛る。袴を穿々と燭と兼て那這と索ひて这里ふ來ふれべ。姑麿姫の縁頬。中戸一枚繩用かと尻うち樹で安次とも垣衣と俱は傷ふ坐らして却癖者四人を數は果たず支の趣首うち尾まで箇様々と報知を以てさ解示せ。安次の垣衣も駭然と耳を傾け。それ亦仇夫の所に立だを連づ。知勇と感嘆し。善きう一今宵の首尾と祝して俱ふ然がる。當下姑麿姫又を既に我猜せ。如く伴の四個の癖者へ仇做世人ふ馴れ方。刺客やあむぎて支黨見る偷見す。必を頭領ありて重て打入る。あべあてん。ゆの前後の門よ。襲る。伏软料りかどろ。その配ひ後ふそせ。板の件の癖者们を生拘ら。とぞか。省勢し林木もさと。皆數多果と。今ふ穿數金の照驗を以て鉋キ。けれ先や屍骸を檢せ。を。金を。え。て。あく。と。り。み。か。と。ど。う。小女次あらぬて。身を接せ。垣衣も共侶。か。王。と。俱。一。庭。画。の。書。院。近。た。樹。の。下。よ。庭門の這方を砍仆される四賊の屍骸。鮮血を涂れて横たわる。姑麿姫も亦おの折ふ。火番

就てよく視る。初ふ數を捕ら。一人。小嗜囁囁。を。と。要。ふ。それま。鎔網衫を被笠で腰を囊袋と着たる。を。拿。ま。く。と。それ。焰硝。を。り。又。後。ふ。數。を。果。た。る。両。個。の。賊。の。名。あ。り。の。状。と。が。り。打粉特。物。を。拿。る。が。這。們。も。腰。を。火。器。と。帶。た。る。姑。麿。姫。安。次。か。件。の。四。箇。の。火。器。を。拿。ま。し。書。院。が。入。ん。と。せ。一措。ね。が。我。不。少。す。り。あ。れ。ど。と。く。ふ。安。次。阿。志。て。そ。が。併。後。方。ふ。從。ひ。き。恁。而。姑。麿。姫。の。縁。頬。よ。書院。よ。食。い。初。の。如。く。中。き。兩。戸。を。閉。ま。す。却。安。次。ふ。示。毒。を。數。さ。れ。る。癖。者。们。が。腰。を。火。器。を。帶。ま。る。必ず。是。火。を。放。を。暗。號。よ。走。死。與。ふ。そ。あ。け。る。縱。そ。事。れ。れ。も。と。等。者。空。不。退。ふ。時。移。り。争。ざうち。寄。あ。づ。一。开。ぐ。庭。門。ト。リ。稠。入。ぶ。我。單。身。を。對。治。せ。倘。玄。闕。よ。う。ち。入。る。よ。這。里。下。う。と。遠。が。ね。ば。另。ふ。成。り。を。置。か。め。及。び。背。門。へ。復。一。心。と。居。屬。て。稠。入。る。賊。の。あ。ま。う。が。磯。と。用。て。數。を。退。け。よ。垣衣。が。婢。妾。每。と。徐。ち。ふ。喚。覺。一。這。趣。を。告。知。て。期。ふ。臨。む。と。鬧。が。を。づ。毛。然。と。漫。ふ。駭。鬧。ぐ。ふ。く。つ。み。ゆ。不。覺。の。罪。を。許。か。う。豫。あ。の。ニ。ギ。と。誠。ひ。一。今。よ。う。と。燭。臺。の。お。ん。限。り。准。備。と。衆。賊。入。ぬ。と

又さうべ速お火を點一列ねそを去園と背門の方と這頭の壁際あ間配る。奴隸并ふ農
僕們の耳房の母屋小離れあれども他們亦駭鬧を側杖轂をもあが一人をも手損
て駭鬧を聲耳とせん。毛矮樓へうち登りそ窓下ろして喚禁めよ足等ひ垣衣役の役我逆
て料りが如く今宵亦復事あべ漏心かの餘と復一のをよくせよかと其を示せば女次先答を本
初の神機妙弄。和漢ふ類有るに女丈夫そそりませば又何をう談一稟を矣隨意從じまう
え。そい初論ひゆ只身身邊を立離れて背門のそと守ん心苦した限りえ切て笛弓眉尖刀
みと短兵をぬき推乃て賊徒を防せめりとひが亦垣衣へ憶を嘆口氣にて。かく女子が生れても
かく折る御先途か立甲斐見る恨みぬゆうとひを姑麻姫尉心を然ひ是を垣衣白刃城振らぐ
敵ふ當るも奥を守りて後安く主ふ賊を撃むちも勤へをすド忠義復一もあうが單身を
たゞう。おもひあらぬもあらうぞ。かくもあらうぞ。かくもあらうぞ。かくもあらうぞ。みこら
見賊を數えバ術お在り之器械より我短刀も足れりともい你が修煉の小石を飛べ
散死を異ふも。今ハ丑あやうりぬん快々準備をせとうと諭せば安次垣衣もかへまよりきうけ

むりそ。但少しき立ゆけり。恁り一程不真夜半時候あり。後門路潛寄る。柴木綿張一隊の
衆賊。久く暗號を等うけりか。毛五元多までも静悄として音もせざれ内の虚寒を覗んと。獨歎
郎を薙を棄て既は潜入する。其も亦速も坐て床を。接頭三们は是も亦坐りて歎息び外
面不他を等て未半晌へ経ぎける。丑の五刻となるふ時候猛可小前門のそと開ち。物响連りか等差一ヶ。
挺頭三耳と散て那皆听だ。前門より両頭領の一隊へ打人す。疑ひも。非除暗號あつとも。快
稠合て分捕せん。這期不後まで木綿張一個の功ゆえせそと罵示せば等困倦方小嘆囁あら
ぬ。と十四五名各先後を争ひ走り蒐つ。後門の門扇を推すよ鎖へ固かり。快打破れと
相罵て。准备の幅板を振抗る。毛角門扇と打破て。齊一咄と稠合す。前面ふも亦小
玄關わり。忽地昭火と燭臺の數豆りまぐ隈ゆる。白晝の如く分明うあて見紛へべゆ
わびやうける。小式臺の真中小待設す。一個の若黨。辨紋の褲。袴の棟と高く結る
る。腰小西刀と跨て。傍小紙張の長小籠を引着まう要ゆべ。その人自画優形矣。敵を怕れぬ



心魂長谷部信連とよひづと稟然と威風四下と拂て罵咤る聲も少く。宋もすら是甚
麼る者ぞ我猜一う強盜毎女性主人と侮り蟄せる龍の鬚頭を援え血小して地方の民の
與小患を禳へ我を誰うちふらん。這八九井の姫上ゆ。譖夷相傳忠義の壯士隅屋復一郎安
次此より在り然りも知らば夏虫の火虫不似する天の眞訓逃る小脚のわれと歩之と走之
や。首を立て刃を受かせも果毛出水挺頭三怒れる胸聲歎り立て唱う青猴子前門へ一隊の
惜え一千金遞手と主の菩提を吊ひね。そと不兼知の不の字也。ぬびりと和郎はと園宅の男女を
皆屠ん。大家本支をえさせと罵る聲と兵侶よ咄と嗟た一。小嘵囉敵一人と侮りそひく
兵器を打振々。左右小牆ある通路と皆後れと。競ひ蒐るを。安次の物をすま。準備の小
籠小貯る。小石を抓り破と打つ修煉錯ひぞ先小找み。賊ハ額を打破られて苦と叫
びて仆れり。程もあせど又打出す。投石の矢の飛ぶ如く瞬間小亡人の躬所を打れ。瞑目きて象

棋仆仰及方挺頭三舌を振て小嘵囉持て角弓食みて箭來と料り窓寄て射て斃
えと。克亦固る程もあて飛来る投石不挺頭とも左の肩尖轂を破られて弓箭と撲地と落
たる奴不堪ね奮然と力を拔て走蒐る。安次透き毛入安次の修煉不挺頭六額を轂され骨も
碎け窮所の痛瘡不控と仆れ死ぐり向あ前毛入安次の修煉不衆賊辟易と轂を仆さ
るの十名あまり残るも痛瘡を負ひて命を限つ不逃去ける。是より先小垣衣の準備錯ひ前
後の門より夜偷の入り折毛張燈燭臺の火と點一毛をもす。婢妾毎豫あり。支情を
ぬふふらむと起て毛傍ありまあれば時を移さむ間配る程小奴隸並不農僕們母屋を
離れ耳房か在り事の恩劇と駭覺て皆歩て見入る。おせきと罵る聲と垣衣を垂
知て獨矮樓を走登り。窓を推開し聲高す。毛衆人謀ぐ。夜偷の禍鬼ありといへ
ども復一刀衿と姫上さみ。毛を下へかひと轂を捕る。憤れが更の鎮る毛。大家を
修籠り居よ漫ふ坐て側杖打れる。倘毛旨不從ひ矣。越度だんと姫上仰ふゆり。毛浴て慄と

尔と大家うちこそ。原来を盜賊の過半數ひれすと姫上善す。あまし。れよ優ることもす。大
刀抜く術へぬぞ知らず。俺们が出立と。み脚筋縁す。あんのと。あらぬ白お耳ひだす。そぶ中か他
もあり。獨頭を傾げ。継る職をも。身の先途を外すぞ。阿容々々と。を竜居。が犬猫も劣
る。輔の相公をりふ。のを第の。这里より遠もあだ。那相公の姫上。叔父公へ後見をも。那
黒報をあせ。加勢乞ひ。萬ふ一も失錯す。然けれど。日今の。肩闘戦の最中ふあえど。
前後の門より。歩き。狗竇より。跋ひ。邁ひ。氣ぬりやある。志あん。めん。俱立ね。とのそせば。口
うてま。在ま。まこと。とく。きらみて。よく。とも。くろく。ぬぐり。くらいで。くらべ
這み。他よ。將され。寔然を。答。外か。の。兩三名。はと。俱不辛と。狗竇より。潜出。頭ふ
か。くもの。そら。ままで。ゆた。き。ち。さと。あ
機り。嬉子細。拂ひ。も。更。正直。の。第。投。走。却残り。農僕們。困。果。在。けふ。
姑且。と。背。の。賊。多く。安次。お。轂。れる。の。餘。絶。逃。物。响。静。お。き。一。皆。く。ふ。歩。來。
痛。瘡。小。嘯。囃。死。二。名。あり。三。三。間。四。方。よ。その。形。勢。鑑。定。走。聚。索。
名。さて。矣。よ。あ
樹。然而。破。瓦。後。口。感。夜。明。け。リ。間。話。休。題。再。説。五十。槌。電。次。隆。光。の。子。雷
樹。

九郎隆成の。數。れ。恨。堪。ざ。れ。が。衆。賊。と。找。也。書院。す。雨。戸。四五枚。打破。稠。入。ん。と。そ。ける。岩
か。か。き。姑。麻。姫。の。短。力。と。推。乃。て。獨。縁。頬。立。在。る。良。の。光。景。神。狹。人。欲。と。驚。に。疑。可。き。ふ
猛。可。書。院。小。建。列。ね。る。燈。燭。の。光。ふ。射。られ。毫。光。の。似。ふ。不。免。か。衆。賊。齊。一。向。と。も。不。免。慌
惑。る。仰。及。て。倒。き。も。あ。俯。も。あ。後。う。賊。推。滾。れ。已。が。劍。戟。辟。かれ。戰。そ。と。唐。を。脣。ふ。り。
五六名。小。及。び。隆。光。怒。れる。聲。勢。立。て。あ。不。覺。入。何。事。ぞ。姑。麻。姫。萬。夫。の。勇。あ。り。も。鬼。雷
あ。も。神。あ。い。只。一。個。の。妙。子。と。左。右。小。封。助。の。武。士。も。一。力。と。勁。と。數。捕。當。と。叫。擬
其。ひ。だ。き。勢。ふ。引。立。れ。衆。賊。を。巻。起。ん。と。は。姑。麻。姫。見。く。ち。笑。ひ。言。可。笑。天。訓。を。ま。や。き。波。の
駆。け。が。そ。清。に。河。内。小。隱。れ。ゑ。補。氏。の。嫡。流。ゑ。我。社。院。の。父。祖。相。傳。の。千。劍。破。の。城。ふ。異。あ。も。然
る。と。自。の。毎。の。土。足。不。踏。も。汚。ま。ん。や。鄉。高。來。せ。一。四。個。の。賊。我。一。刀。ふ。八。段。做。ぬ。を。目。利。見。く
知。り。死。地。ふ。入。て。天。の。網。望。よ。儘。と。一。個。も。漏。ま。す。這。世。の。暇。取。せ。え。ど。の。せ。の。果。群。立。く。
ゆ。ア。ビ。覗。く。衆。賊。の。突。戰。を。ふ。く。刃。を。うち。早。光。り。と。競。蒐。る。姑。麻。姫。ハ。り。下。空。と。短。刀。り。そ。

殺歎非け。秘術の大刀風。刃尖を當る。真額利子割車。或の大袈裟割。脛の脳
嚙出。死きゆゑく。然て皮の深瘻。平張俯。残寡坐り。隆光焦燥。短鎗をうち
振り。暴たる獅々の高嶺。降参如に勢ひ猛く。只一鎗。と突櫛る。姑麿姫肉。と身を
反し。打拂々。一上一下。と戦ふる。刃の逸九寸五分。護身刀ふむ。ど振る。毎小虹
電の天ふ横。未異。胸を刺し。欲えが。その刃。胸ふ在り。面と刺しと欲えが。その刃。亦面部を
掩す。或へ長く。或へ短く。一身通て透間みけれ。隆光心駄驚て。眼瞑。腕衰へ。殘瘻を負
な。三焉。鎗の蛭巻砍葉。既ふ危く見え方ける。傍り。程。雲館。奇峯。五白較振
平の兩賊。初ふ痛瘻。肩。庭の樹蔭。退ひて。瘡口より。流。鮮血。吸。息を吻。
在り。頭領五十槌。隆光。姑麿姫。殺立られ。既ふ必死の光景。見る。樹間。暁。不透。
見て。棄て逃げ。まよ。極て。俱ふ走ふ。と。謀。合。共。呂。大。方。拔。駿。樹蔭。出。左右。別
別れ。殺。尋。姑麿姫。毒。先。這。奴。們。殺。拂。と。緊。刃。尖。も。烈。く。左右。不當。

る。そ。隙。小。隆。光。辛。し。必。死。と。免。れ。夜。紛。れ。逃。て。往。方。知。れ。ざ。け。余。程。不。奇。峯。五。振
平。稍。隆。光。と。極。ひ。不。れ。引。外。と。走。え。と。身。甲。斐。奇。峯。五。利。身。肱。破。落。立。て。仆
そ。折。ふ。そ。身。大。刀。毫。膳。と。萬。慾。と。串。さ。叫。び。も。果。せ。死。で。づ。振。平。兵。駭。慌。て。逃。ん。と。も。ふ
ま。え。さ。え。わ。う。便。の。ゆ。柱。ん。と。よ。ふ。力。足。ら。ば。へ。う。ま。く。度。と。失。そ。左。の。肩。よ。大。袈。裟。ふ。砍。れ。そ。樸。地。三
段。ふ。軀。ひ。え。て。仆。と。け。そ。の。餘。薄。瘻。肩。ふ。う。け。小。嘍。囃。們。逃。て。殺。れ。る。賊。徒。十四。五
名。隆。成。扇。坊。八。念。珠。七。蚤。八。奇。峯。五。振。平。們。ゆ。下。小。嘍。囃。八。名。互。中。か。き。呼吸。絶。ぎ。此。
絶。ふ。二。名。ゆ。過。ぎ。け。只。五十。槌。隆。光。之。天。四。維。漏。れ。ふ。似。れ。ず。他。も。亦。是。矢。傷。の。鳥。衆。賊
さ。也。ち。や。こ。ん。き。大。半。討。滅。せ。れ。て。勝。闘。揚。る。鷄。の。聲。庖。厨。の。く。不。高。く。燐。え。て。も。晚。ふ。う。よ。の。登。時。垣。衣。へ
去。方。銚。び。ゆ。づ。も。あ。い。す。け。り。然。ば。又。姑。麿。姫。も。垣。衣。心。利。方。擇。を。賞。自。若。と。と。先。血。刀。を
洗。ん。そ。貼。て。縁。頬。ふ。う。ち。登。れ。垣。衣。淨。盤。水。と。刃。激。樹。鮮。血。流。ま。る。程。隅。

屋復一郎安次の後門路より翻入くる。衆賊と大半夷はれば、主の安危を問ふ。走て書院に來みける。姑麻姫招致着て、王僕送よ賊を撃する。進退を懲々と報えもす。報もと、小雪季時笑局に入りよけ。浩然、九の村人々の這莊院が強盗入る。手ててかくあや知りて、かく芭蕉火振照ら。桿棒連枷などと携携て、那遠より走る來みける程。这里る農僕們も皆耳房あひて來る。他們の後門をうち成る。既かうやえありけ。當下安次の前門が立坐て、來る村人を勞ひよと告て、衆並ふ三個の奴僕からまそ。安次が報をす。嚮ふ夜偷のへり折小可們衆籠居て外ゆる物そと仰のう。羨みへど、然びと御危難と外ぶぞとの堪きけれ。輔の相公余報もとせ。御加勢力城乞願さ。あんかくのめぐり、ゆけのとあやむ。まぐつづき。乞願さ。尋思ごと辛と。拘置より脱出で、那兒第へ推参考。恁々と告願せ。ふ真夜半時候の事。速め入馬整ひで思ふも似む時を移され。只今坐て來ませ。六の兵を票上んを走りかろひ。よし安次點頭して、そひよく心死ひた。非除那期ふ合とも必是本子部殿正直。云ふ報

稟をだゆる。ふと身、檢せられぬ。萬緒が便りよみ。下と答て、恥て退して、うそを姑麻姫が報。席を儲て、外は立て坐す程。楠式部少輔正直。身甲小肱鎧脇盾。桃花馬不うち跨り。そ自身の伴當八九名と士兵幾十名疾駆催。相従て、馬を快め、車不ければ、安次則先駆て、駆て、書院案内をあけ。當下、楠正直の馬をし、前を棄放し、引け上坐あ着。姑麻姫の衣裳を束ね。奥より坐て對面。主客の口誼言証れば、安次の席末う膝つまづきを恭く。正直ふらり對して群賊せられ。欲きうと演へ。姑麻姫が安次一個の功を譲りて、具ふ報。強人の頭領と。かく久安て、瘡と負ひ。逃亡よつて事の趣及小嘵囉とが。死ふるも爲め。責問れず。出處姓名必知らべ。とひげり。正直これをうなじて、感まこと大きね。憶を貌を改め。通対て、王僕の智勇。一個の妙子。一個の後生外み。幫助の兵も。ヨヌ。賊徒と残り。寡寡ふ。數を捕縛。争ひ。前代未聞こと。昨夜賊難の告あり。うち心ぞろの惴り。眞夜半竟が入馬聚合り。

ドヘ
地の民を駆
集め、軍
役の使
ひよと
ロノキノ
ト訓
餘も皆
禁シテ
知るべ

伊勢傳第四轉卷二

羣玉堂

今まで汗顏至極。甲斐も竟ひ多々官府の吏へ。我左も右も提計はん。這等の心安か
体へ。先を屍骸と一檢せば。案内を。書院の庭より後門内
を。臥横される衆賊の屍骸と迷ひ見せ。正直連りの賞賛の聲と。施を檢し果。
と。舊の坐席かへ。却姑麻姫から對ひて。勝まる主従の武藝勇敢。賊徒をその
身か兵具ある。箭短鎗と推て。前後の門も乱す。と。數の果たぬ。主従俱少薄瘞
不所見。がむくに極て奇。京師の御沙汰宜しく。幸ひして正直も俱。面を起夫。豫然少
なるあり。近屬。這地へ故も。盜賊在。他所よろも來。土民久く安堵し。夜も鎖をとる。
う。不。され。昨夜猛可ふ。然る賊難のあひ。左まれ右も。生拘られ。瘞員の賊。榜
回せば知る。や。兵每快く。牽坐よ。と。余伴當土兵。羨りぬ。と。應て。庭と背門が敷られる。四
個の小囂囂。養。立て。縁頬近く。推坐。と。正直。立坐。そらぐ。これを見ると。背門が敷かれて
ある。兩個の。賊。一個の鼻を數。破られ。齒も皆。摧脱。向とも絶て。忘せ。又一個の囂囂。

右の頬。うち左を。數。抜かれ。は是も。の。終。と。ゆき。又。庭の樹の下。ふ。佇れて。存り。二個の賊へ。
も。あて。よ。う。そ。あ。れ。の。べ。な。や。ね。俱。深瘞。衰果。霜枯野邊。不。鳴。虫の音。も。肩。幽。呼。吸。暢。あ。一言半句も招
き。氣力。か。る。瘞員。毎。の。けれ。榜。回。竟。ふ。そ。の。甲斐。も。あ。も。左右。よ。程。か。ぶ。中。二。賊。脆
く。息。絶。れ。姑。麻。姫。も。安。次。も。瘞。を。肩。せ。手。を。生。拘。ら。び。と。悔。く。紫。色。死。え。云。と。の。け。せ。
正直。や。く。慰。め。て。約。莫。這。四。個。の。賊。深。瘞。不。言。舌。不。便。毛。ぬ。招。ま。れ。ど。守。護。盛。不。よ。う。处
理。示。と。悄。地。穿。數。金。せ。れ。逃。亡。者。と。皆。の。件。の。賊。の。頭。領。も。竟。夷。擄。捕。う。下。
生。口。并。ふ。衆。賊。の。首。級。遊。佐。の。城。齊。て。よ。と。就。盛。不。訴。て。闇。屋。復。ハ。兵。侶。那。里。赴
く。准。備。せ。よ。と。ひ。外。面。見。出。と。を。れ。兵。每。の。數。さ。る。強。入。の。首。送。き。數。落。て。頭。立
た。る。ゆ。ん。と。ち。や。た。五。個。の。首。級。の。耳。朶。を。穿。て。脾。と。附。よ。我。い。そ。を。齊。て。遊。佐。の。城。へ。赴。く。
土。兵。兩。三。名。い。る。不。這。里。不。留。と。快。旗。院。四。維。と。召。聚。支。往。等。と。吩咐。て。賊。の。屍。骸。と。棄
き。よ。そ。の。餘。の。更。の。箇。様。く。と。詞。せ。く。言。示。と。一。個。の。伴。當。と。宿。所。へ。走。り。衆。賊。伏。誅。せ

趣を正直の妻室木石と首を告子お報より。浩處が正直の宿所より炊そり戦飯を奴隸三四名お擔荷して多くも這里へ遣一けれど士卒們領受食す。奴婢は茶を乞ひ結縛草上に坐す。占ゆ。俱よ腹を満た程より正直を割笠を披す。早飯を喫るども。傍々非常の折れ。東道の管待牌の左側より旃陀羅も聚り来る。準備整ひてとて。庖籠の煙生常小倍する。兀紛ひぐもあらばけん。憲而已を。是の上も人見けれ。奴婢奔走して庖籠の煙生常小倍する。兀紛ひぐもあらばけん。憲而已を。ろを。せんざら。つと。き。ようじき。さる。や。わ。ま。も。と。そ。や。ま。つ。み。く。え。う。ま。き。ま。い。め。こ。れ。づ。み。さ。け。余程や。九村の莊客們。捕正直主從のかた去りかたと。知て又莊院が聚合來。衆賊對うち騎々遊佐の城へ赴く程より。隅屋安次も身装へて。伴當を俱一相従す。共に路次をいを。ぎ。よ。う。ひ。ま。く。あ。く。相。述。農僕們と共侶。其の流れる土と鋤で別壤と布更る。と。す。を。中。が。番。而も。ち。く。破。れ。す。後。と書院の縁頬を。兩戸も。立地。修復。あけ。姑麻姫。村。事。毎。不。昔。を。忘。れ。心操。を。欲。感。じ。と。作。并。ふ。を。餘。の。奴。婢。も。恁。と。吩咐。て。這。村。人。們。

飯を喰し酒を喫ふ儘せ。大家飽満飲食と。欲びと演德と稱。各々宿所へ退り。是より先が正直の馬の足搔き草を。遊佐の城へ入る程。先伴當と走りて正直非常の詭ふよそ對面を請ふ。そのせう折らず遊佐河内守就盛へ問注所を立てて那這き民の訴をうち。听て在りける。楠正直來訪の聲を。耳て退治して對面を。主客の席定りて。迷不寒暖を演。恙きを相祝。看茶の礼を訖。時正直の膝を抜く。就盛ふうち對面。昨夜九村を。姑麻姫の宿所。強入。多く乱入。と。主僕前後の門内。相柱て。許。予。敵。を。捕ひ。ひを。中。か。領と。おぞめた。賊の痕と。肩を。逃亡して。遂。ふ。お。往。方。を。知。め。又。兩。個。の。生。口。あれ。も。深。痕。を。衰。そ。の。ふ。この。克。べ。く。ひ。故。ふ。衆。賊。の。出。處。姓。名。詮。議。の。照。驗。を。お。ど。す。季。處。を。徇。示。され。て。件。れ。金瘡あり。穿。數。鑿。ら。一。か。糸。捕。ると。か。う。條。下。官。の。那。大。斐。と。報。れ。れ。よ。入。馬。と。調。緝。捕。の。與。ふ。姫。女。の。宿。所。へ。騎。着。て。ひ。ど。も。お。夏。果。を。後。れ。詳。究。知。る。よ。う。れ。よ。姑。麻。姫。が。家。の。若。黨。隅。屋。復。一。郎。安。次。と。お。者。ふ。件。の。生。口。首。級。を。亦。聞。て。訴。ふ。乃。奈。り。之。

那安次と召寄せて向をより分明す。と告を就盛うちて坂馬にて思ひ難なる
眉を頻單に。そも安らぬふそじ當郡安五十梶電次隆光とは御士也。他武藝師表
多く。その性義侠の豪傑矣。が這年来地方の輿を偷見と穿歴り捕へ。數々殺せよ。まく
けれ。這地久く静謐也。土民安堵のを尋り。と傳せしむ然。群賊の古入り近來未
聞の椿事へ顧ぶ件の強人們の當國の山林を。躲居するも。他御どろをも。惡黨
を。が縦そ金瘡と照驗ふを。索る。餘國の知ぞ。這地也。搦捕をか。既べ。免とも且
梶首の。兩百祕措で悄々地余類。美牙數金等を復。一と。若黨の衆賊。乱入せ
光景と。鞠回急便宜。もん。誰う在。その後生を快々召ね。と。立れ。遊佐の郎黨阿
と答て。次の間か和居る安次と。ねて找。登時遊佐就盛。安次と。近着て。昨夜戦の進
ひき。を。と。退と。賊の。三。寡と。その打拂と。曲々。向ひ。が。安次。の。有。隣。これを。坐。平暗を。尊。姑
姫の武藝云と稱。その身の。挣姿功と。既。初姑麻。姫が書院の庭。で。桐哨の。賊を。四個を。

を。も。數を。捕。う。と。れ。も。より。安次們を。喰。覚。と。防戦の。准備。を。速。か。做。せ。又。其賊徒の
前亭の。と。より。打入る。の。三十許名。又後門へ。十四五名。一時。ふ。乱。入。る。と。主僕。前後。相持。す
あ。不。うち。な。と。多く。數。み。果。た。る。そ。が。中。の。頭。立。る。の。四五名。わ。各。身。甲。よ。肱。鎧。臑。肩。て。或。の。笠。前。と。駄。
ひ。角。弓。を。夾。或。ハ。短。鎗。と。富。れ。も。あ。い。と。大。々。あ。い。が。數。捕。る。そ。の。首。級。の。脾。を。附。れ。る。
又。小。壇。西。囃。と。か。した。を。鎰。細。珍。と。被。さ。り。と。内。中。多。浅。瘡。と。肩。さ。ぎ。那。頭。領。が。先。ち。と。逃
れ。亡。た。亦。も。幾。名。う。これ。あ。ん。と。か。ひ。ふ。ア。ス。頭。領。と。か。した。賊。ハ。姑。麻。姫。と。戦。く。既。ふ。危。う。
折。支。當。黒。の。封。助。か。お。そ。引。外。と。逃。亡。する。そ。の。支。の。為。体。見。い。ゆ。と。皆。死。ゆ。漏。ま。辨。古
糸。小。次。第。と。支。糸。を。報。う。が。就。盛。只。顧。感。嘆。と。笑。ふ。倍。方。姑。麻。姫。の。武。藝。胆。勇。昔
も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。も。あ。ん。ぐ。
受。取。う。と。京。都。を。ま。あ。と。か。下。知。付。從。や。と。答。て。正。直。か。うち。對。ひ。衆。賊。の。乱。入。夜
半。と。とも。李。部。殿。と。ひ。姑。麻。姫。の。宿。所。と。然。ま。で。遠。く。も。あ。る。援。兵。を。期。遇。さ

下の後見うち一甲斐あや怠慢の罪をもとめ是等のうそ明々地ふ管領家へ連せん
あまひさきたる異日の御沙汰心のとね。あはれを怕れぬひあらび便直と旋りと。那逃亡する賊の頭領を
捕捕てまわしゆ然と云ひ愁と轉じ。欵ごどきを捷徑うえある下官が内意き。勿論
當城ようも梢々。緝捕使臣とよく出でて穿鑿由断あぐんで先づ這意を泊めし。
苦くまけふ窮屈示せば正直听く。板然と汗き額を拭ひむ。好意と謝。告別して安
次并の伴當をひき立々城を退りて河備の宿所へいそゞも。樹爵などと樂事を物を
下晡ふきつゝ時候。ゆく歸宅ふ及び。安次の第まで正直を送り來く。告訴の首
ひよろ尾の宣かは。欵ひ演別を告。伴當をねて七町六町餘る八九村の莊院を投て還り。

第三十四回 惠子の恨五十槌偽書を作

投名の悔荷二郎同惡を階る

却説あ朝五十槌電次隆光が千劍破村を宿所へまことに天の明る程。小嘍囉八九
名各浅瘡を負ひ、逃て八九の莊院。かく來ふけた長總敬馬起出く。吏の要と
倉。大家聲と悄きして昨夜の挙了酷利。小頭領を首とて股肱達も皆撃
殺。大頭領をうちりけん。いま安危を知り。先あうと報票えを手に脱れ
還り。ととを長總敬馬を。ういふせんとぞう不涙吐三色蒼然て立て見居て見思ひ難て
ゑその夏の趣の根穿り葉を。欲り離まし小嘍囉們の迭代り。姑磨の姫主僕の智謀。男
えひかのき。う。莞然とあき。うらみ。ぶどうく。う。あまめある。うらみ。てある。ゆう。ま。ひだりと
悍豫那機と查めん。前後の門内外相柱を。轂。靡非け。爲体。首をひき。慈々尾。箇様
あす。う。今見まことに。夜の光景。話説巧者。良品を漏せ。曲角。五十一外事。う。
倒れ。良もあんを顛転せ。聞く眉小火の根。一家の破滅。夏の麦卦。自身の吉凶を。ひ難て
多く。う。今うち。不濟事。乍の胸算木。投頭を。困。浩处。小隆光。辛く。死を免れ。背門路
き。家ふさ。う。わざう。つま。つが。うか。うか。長總敬馬を。かく。叶欵。や。俺所天。然ま。善惡も。う。欵。と。向。恥。違。く。

伊勢守第五回 車卷二

立迎化せ。程小隆光一聲阿と叫び。俯覆ふ伏き。長總并小小嘍囉们へ吐噉とぞう驚
坐。抱き起ら喚活の藥よ水よと術と盡を程。隆光を垂く息出で頭擣げ左見右見。長總伏
謀詫言を丙丁を還り。ひら腰を組直と柄をや恁ぞの淺瘡小屈する我を恨む。只
櫻の実の獨子。雷九郎と姑摩姫が歎せ恨ミ胸ふ満く憶ぞ氣絕をうけん成敗ハ時
運が在り悔モ甲斐急ゆ。死命とぞ我兒も與ふ異日怨と復え。我金瘡の妙葉也。
若們も主と用ひ。腰も着る藥籠より件の薬を含む。先身の瘡ふことを塗る。小
自の及き所入長總より借り。布と膝けきせ程。小嚙囉们もの薬を賜ふ。とく
用系。疼痛立地小退まえ。起居自由。向ふ。中ふ。昨夜挺頭二荷二郎们。隊小屬。そ
那莊院の後門路より。打入る小嚙囉も二三名。あゆみ。隆光。他們が向ふ。その曉は挺頭二郎
八名。若黨隅屋復一郎安次が投石小轍れ。死する。又荷二郎が夏の初小内。の虚実を探
らん。獨潛入。久く。多集。來ぞ。存亡。安定を。聞り。而て。初て。聞く。遺恨堪。憶す。

さすん。
嘆嘆。そよと。先荷二郎。生拘算。欽。歎。一椿。一椿。一椿。一椿。一椿。一椿。
姫の刃火。小當り。かくて。必是歎。され。手。を。お。手。と。這餘の隊下の痛瘡。小と。退難。生
拘れ。も。も。が。开。撃。同。の。痛楚。不。堪。さ。招了。分明。多く。我身の利害。其首。不。わ。い。
夫。た。ご。當。怒。の。眉。と。顰。顰。せ。裏。げ。小。嚙。囉。们。へ。頭。を。搔。く。寢。ふ。然。と。答。ある。長總。貞。呆。を
そ。ま。の。坐。ま。を。そ。う。ま。た。ま。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
果。亦。入。ト。更。少。計。の。半。所。を。知。り。姑。且。ト。隆。光。思。念。ゆ。義。言。と。解。多。長總。旨。か。ア。キ。
我妹。上。が。の。三。憂。ひ。の。事。守。ふ。笑。を。遊。佐。ち。緝。捕。の。沙汰。あ。る。雷。九。郎。首。と。そ。
こ。ニ。う。れ。れ。め。と。
股肱の甲。し。舊。の。ど。そ。共。侶。が。這。里。ホ。ウ。が。亦。怕。き。足。く。ね。ど。今。ハ。多。甲。斐。急。火。の。數。少。ア。レ。
克。見え。駆。る。綱。が。八。名。そ。も。瘦。負。の。臥。猪。床。火。纏。箭。と。擇。べ。む。ね。ど。午。六。計。走。る。小
糸。そ。資。財。雜。具。を。遺。キ。竊。出。し。俱。不。他。鄉。走。ア。大。家。腹。と。繕。て。准。備。せ。よ。と。そ。が
未。炊。僕。們。そ。餘。の。火。の。縁。由。と。少。知。り。火。を。逐。電。キ。本。ま。よ。と。火。隆。光。又。是。第。ア。火。
腹。火。立。ど。も。せん。御。も。う。多。火。丙。丁。一。兩。名。庵。漏。火。退。火。炊。菴。せ。よ。と。餘。火。我。と。共。侶。火。奥。ある。

東西より擔造り。長樂の懲る折。物を思て是れを必要す。金錢衣裳と取調ま。室起
行の準備を怠ら。快々立ねと焦燥る。火速の指揮。小長總も滅没の心を燃し。然るとその躊躇
を免り。皆共侶。小身を起。先程。次の間に入りて。やう等の人々と喚禁を方聲。兵士隔離を
機地と推測。徐に找尋者を遣れ。別入を。木綿張の荷二郎。その身を毫も
廣と負ひ。打扮。昨夜の侵入。背を東西あげ。祇包を駆く。人皆訝る。中か
隆光を。聲を被く。木綿張和殿の急。今還づ。故をや。既不と我密談を。那
里不偷。金子。欽他御へ走る。火速の準備を禁め。是甚き情由。と向か間か
荷二郎。傍不坐を。占め。背を。祇包を解卸し。莞然。笑。隆光ふうと對。久事の趣を
見。叛黨を。詐り。理り。徐に。其頭を。婢妻毎の袋番。奔走者。遂に屋
獨那莊院。不潜入。那這と覗ふ。程小前後の門。諸頭領の齊一。打入。謀。兵响
高く。聲を。登時。在下。主從の逸速。機を。查。奥の悄語。聲。

毛丸。克ぬま。防ぐ。事。事。前後。操合。攻も。輒く。大利を。がん。我ハ
その虚小眼入。一千金を。竊。若と。尋思。ナリ。夜襲の場。面出。せ。ま。走
ま。身を。潜。那庫藏。ふらま。其頭。も。婢妻毎の袋番。奔走者。遂に屋
尾を。鑽。手。毛。然。どそみ。毛。空。歩。当。あ。人。毛。寶子。下。小潜躲。毛。が。内も
便宜を。覗ひ。今番の。持。アヘ。毛。湯。然。も。猛。毛。人々の。打散。毛。と。か。天。ハ
朗々と。明。時候。姑。麻。姫の。叔父。楠正直。が。加勢の。與。小。四十個の。土兵。を。俱。毛。來。ふ
れ。ど。毛。迹。の。祭。事。の。要。立。姑。麻。姫。と。若黨の。復一郎。安次。の。應。對。の。與。
書院。不。存。然。而。実。檢。果。下。正直。主。從。が。早。飯。の。割。箇。を。披。く。ゆ。身。を。煎。茶。の。儲。
湯。よ。水。よ。と。園宅の。奴婢。们。奔。走。て。奥。史。人の。あ。毛。立。た。り。そ。の。虚。と。覗。ひ。立。毛。那。這。と
毛。相。遠。か。是。ぞ。が。東西。を。右。程。小。姑。麻。姫。の。便。室。立。ト。思。一。室。ふ
潛。入。毛。是。ぞ。が。東西。を。右。程。小。姑。麻。姫。の。便。室。立。ト。思。一。室。ふ
毛。あ。毛。書。案。毛。書。籍。毛。ヨ。ア。カリ。又。西。の。毛。横。三。尺。毛。社。壇。め。方。処。あり。毛。

有像卷七



注連を引亘。白練の小幕と垂れ、何ふうわんと遠く搔用を内とす。小菊水の
花號着る黒漆の箱一箇ありて神像を絶てす。拿抗試る重をえがくも
措れを其頭ゆけり。袱を裹衣く偷拿り。狗寶を脱出でる山路の樹蔭で件の
箱を用ひて原是二重相合て内も亦菊水と搃撒金を描做す。軟縵草の
色匣を訝り急に繙き見らふ。皆金器をえど然と棄て東西をもあらねば舊化
ごふ被ふ色をぬぎ背ふ焉。心から頭領の安危とゆく向ひを方僅背くからま
料を逐電の密談をうち算え詞の腰を横遣す。折ふ觸れ六膝とも商量且所史
別譲あらず在下八九莊院の簷子の下ふ身を縮く。久く躲きあり折那首の奴婢
らえさせ。事の始末を渡笑ふ。生拘れる火家内丁只是四名をひどむ。後門路か
わ在りて入へ那安次が投石を數され。齒え鼻をきりえが向む物をぐもあむ又那廢
人们噂せ。車の始末を渡笑ふ。生拘れる火家内丁只是四名をひどむ。後門路か
わ在りて入へ那安次が投石を數され。齒え鼻をきりえが向む物をぐもあむ又那廢
人们噂せ。車の始末を渡笑ふ。生拘れる火家内丁只是四名をひどむ。後門路か
わ在りて入へ深瘡を堪へず牽縮氣を程り。俱か息絶うとの死。怨懣れ誰が招了
仆まる三入へ深瘡を堪へず牽縮氣を程り。俱か息絶うとの死。怨懣れ誰が招了

とろけんかよ。おりてだるふあらわい。いそきう。そと見るかよ。おりてだるふあらわい。いそきう。
を。おのれの露見不及か。猫を卸し走帆の商談。且休め。急ぎ要あるのまへと落着。只解説
を。隆光はくうち。聞き。家は優す和殿の才覚死門へ入る。まき跡の事。未達。ゆく。父
云。知りする。妙を生拘れる四個の隊下。両個の脆く。息絶。残る深瘡。りゆく。後安寺
小。似る。不幸か。その瘡瘍。招子を。定め。加旗留守。奴們が更の破敗。知り
父。未明か。齊一逐電を。惜妻房の年ね。身の連累を免め。と首訴。未だ。料りを。這夷の
甚麼。と。甚く。荷二郎笑ひ。微笑。宣て。生拘れる瘡瘍の火家が投石傷の愈る。物
いふ。未明か。齊一逐電を。惜妻房の年ね。身の連累を免め。と首訴。未だ。料りを。這夷の
不善。程を。又留守。銭の鋏。们。夏の敗。耳。怕く。首訴。未だ。と。も。釋便直の
よき。す。是愚按。在下一箇の簷子。策あり。且試。からむ。生え。う。擇。ま。か。と。よき。
欽。隆光はく。側室。長總。も。憑く心地。と。小嘆囁。们と。共侶。も。覺。も。腰。を。抜。け。り。登時
木綿張。荷二郎。偷來。袱。包。と。箱。の。蓋。を。那。這。と。爆。下。解。開。せ。然。而。隆光。耳。を。す。
見。更。這。二。重。匣。の。内。是。楠。の。家の。什。物。錦。の。脚。旗。菊。水。の。旗。並。小。南。帝。の。敕。書。あ。又

正成正行の軍令狀。正勝正元弟兄。自筆の文署もヨラウ。未申ふとひとも。那這と用見。おき正元の自筆。未ん軍兵催促の一通。その文言。お早奉為朝廷駆催忠誠勇士。而可起勤王義兵事。云々七月廿八日。河内守橋朝臣と。今在下が籌策あり。ひを是ことを隆光景。ぞの亦ひ多計略。と同六荷二郎聲を低め。いき悟りあは。この橋朝臣と。傷へ。偽筆者不課く。嫡女姑麿姫と。五不字と。年跡花押と。加多く。錦の丸旗。菊水の旗。南帝の敕書と。共。身あら齊。と。正直主の弟小赴き。那人對面。お折。悄々地。訴え。まご知せ。お貴所。稟。面伏。姑麿姫。刀。將軍家を。敷ひ。まこと欲。逆心。今。休。參。て。比。損。捕。れ。悔。を。剥。首。續。れ。す。國恩。恩。思。専謀。企。然。ふ。南朝残餘の武士。相譚。ひ。義兵。を。起。え。鎌。研。既。急。在。下。當。初。正。勝。考。ふ。屬。す。舊。縁。を。知。れ。連。ふ。招。を。の。う。だ。か。お。ゆ。き。あ。ふ。い。が。ち。や。さ。と。の。き。ま。よ。お。お。う。そ。の。え。誘。商。談。敵。小。定。氣。不。意。起。遊。佐。殿。と。貴。所。を。先。滅。て。當。國。を。討。從。企。計。較。そ。

と。懲。を。在。下。昔。年。諱。て。御。合。兄。正。勝。未。從。ひ。心。る。曩。裏。お。南北。兩。朝。の。御。合。體。の。後。も。室。町。將。軍。家。の。廟。武。德。を。仰。望。ま。と。て。あ。を。甚。麼。お。婦。幼。の。反。逆。お。荷。擔。七。金。箇。二。張。の。弓。を。弯。じ。や。氣。も。虚。実。を。知。し。與。お。陽。て。且。その。意。ひ。從。ひ。謀。夏。の。計。謀。不。與。り。一。姑。麿。姫。斜。キ。せ。懐。心。の。よ。向。後。を。愚。む。錦。の。丸。旗。菊。水。の。旗。并。軍。兵。催。促。の。文。署。一。通。を。相。添。て。在。下。小。懶。け。お。懲。れ。野。心。分。明。て。悄。々。地。お。貴。所。と。遊。佐。殿。と。貴。所。を。先。滅。て。當。國。を。討。從。企。計。較。そ。千。劍。破。の。鄉。士。ゆ。國家。の。恩。澤。を。蒙。り。ま。ぎ。二。人。功。も。す。且。年。來。武。藝。を。人。知。見。方。甲。斐。ゆ。き。懲。ぞ。の。小。寇。を。考。う。征。す。と。克。を。國。守。と。勞。一。帝。と。外。聞。實。義。不。違。不。似。う。討。滅。と。後。ゆ。そ。是。等。の。意。旨。と。訴。べ。れ。と。獨。尋。思。と。モ。イ。ク。股。肱。門。人。甲。し。們。禁。自。慾。生。徒。ゆ。悄。や。謀。合。あ。隊。兵。總。ぶ。三。千。餘。名。ゆ。夜。八。九。の。社。院。を。推。寄。く。ゆ。の。躬。方。自。忠。の。者。あ。て。敵。お。機。密。を。知。れ。が。そ。の。戰。ひ。合。期。せ。拙。郎。雷。九。郎。隆。成。を。首。と。憑。切。高。人。四。名。の。餘。雜。兵。お。至。る。毫。ヨ。く。戰。没。せ。程。か。在。下。も。亦。か。の。如。く。痛。痍。を。負。ひ。く。退。き。た。

豪傑の宿意を知る人有れ。夜偷の強人多し。とて立れて戦没の首級生拘の難兵们を遊
佐の城へ牽れ。風聲ふうそ知る。在下那美を初より訴う。イハ半慮の一失後悔の外無事
尤恥矣。已て之を孤忠の宿意。首今告訴未及す。願是是等の趣を遊佐殿通
達せ。討ちの軍兵を差向ひ。在下先を付く。姑麿姫主僕と擊り果て。上を因恩小敷ひ
まつて。我兒雷九郎と俱か戦没せ。門人们が與ふ怨を雪せ。稟も所詐詭危険據は。是で
實事ぬふ愁訴き。這二條の旗と兵か偽書せ。催促状を遞與。裏計畧立地小
行れ。姑麿姫を歎き。然ると私の死心を復す。を因賞曰大々。室町將軍の
御家人が成なり。幸ひあん。這議い。と眞實辛く。語言巧小其宣示せ。隆光心花怒地
開せ。然て大言を憶む。額を加え。通愛充妙計を。我與の諸葛孔明感せ
ゆ。かくかく。ひらり。て。ひらひ。われも。やうひ。まめ。うち。とぞ。うみ。きや。あら。ひらまぜさん
行れ。姑麿姫を歎き。然ると私。死心を復す。を因賞曰大々。室町將軍の
御家人が成なり。幸ひあん。這議い。と眞實辛く。語言巧小其宣示せ。隆光心花怒地
開せ。然て大言を憶む。額を加え。通愛充妙計を。我與の諸葛孔明感せ
ゆ。かくかく。ひらり。て。ひらひ。われも。やうひ。まめ。うち。とぞ。うみ。きや。あら。ひらまぜさん
起。時日後れ。機密の洩ることある。然べ遊佐又訴む。正直主先報。那人必の身
功ある。だと喜び信て就盛ま提成を下。遊佐亦正直。姑麿姫の後見を。且叔父も
用捨き。又反逆の訴ある。忠義と稱て疑ひ。信悦。その譏不任せ。在下が計る處あ
大要の茲あり。恁て悟りぬ。と。辯舌委む論下る。謀慮を圖ふ當ふ似え。隆光
ゆく。感悦と。奇才々と稱れ。長總繫小嘆囃們。耳を傾け賞賛。七度成る。と
け。當下五千槌隆光へ小嘆囃們を喚被て。若達も笑ふ。我明日齋を三種の中細工
用文署す。舊の跡。ふよく似せて。件の五字と年號を寫得する。あ。と。あり。ミ

笑言ふ遊佐の。性狐疑。とて決断不甚遲。か。正直主。姑麿姫。正丸。叔父。而へども。
親の時より南北別れ。仕へられ。今ふ至て中矢。陽炎。他更々。乍れる。陰更迭。刃を
磨ぐ。讐言敵わ。異ゆ。と。這頭の人。皆。の。そ。左。右。も思。不。徑。遊佐へ訴。那人狐
疑の辭休。正直主。商量。登時。又。正直。身。功。争。と。醋く。臺云。と。諏論
を。起。時日後れ。機密の洩ることある。然べ。遊佐又。訴。正直主。先報。那人必の身
功。ある。だと。喜び。信て。就盛。ま。提成。を。下。遊佐。亦。正直。姑麿姫の後見。を。且。叔父も
用。捨。き。又。反逆の。訴。ある。忠義。と。稱。て。疑。ひ。信。悦。そ。の。譏。不。任。せ。在。下。が。計。る。處。あ
大。要。の。茲。あ。り。恁。て。悟。り。ぬ。と。辯舌。委。む。論。下。る。謀。慮。を。圖。ふ。當。ふ。似。え。隆。光
え。と。奇。才。々。と。稱。れ。長。總。繫。小。嘆。囃。們。耳。を。傾。け。賞。賛。七。度。成。る。と。
け。當。下。五。千。槌。隆。光。へ。小。嘆。囃。們。を。喚。被。て。若。達。も。笑。ふ。我。明。日。齋。を。三。種。の。中。細。工
用。文。署。す。舊。の。跡。ふ。よく。似。せ。て。件。の。五。字。と。年。號。を。寫。得。す。る。あ。と。あり。ミ

かれが筆柿小紋二と喚做する。一個の小嘩囉找み出で。小可得もかあらねど。一日のよく学び
來。左も右も仕合と云は隆光點頭。あらま汝且ま学ひ墨色筆法違ひを。よせよが。
と宣言し。文署を拿して遞与ふ。けれが小紋六枚り。答て躊躇見え。懐かと退しけ。
登時又隆光が荷二郎あらむ對ひ。剛才示され。至妙の極策をうり。より料も。這
胸鬱を醫す。然ば那正直の河備の宿所へ赴く。遂延々と。遂電を。奴們が首
訴する。あるん件の偽書をそが。祕計を行ふ。と同ゞ荷二郎沈吟。そも勿論の
る。非除逐電せ。平人们が身の與ひ首訴を。我計行れ。他们が返忠を
虚う。取用ひらば。正直主の那莊院より生虜を牽。首級を齋と遊佐の城へ
赴き。歸宅。瞑昏不醒。在下へ肺時の比。悄々地の那里へ赴きて。夏の宿を覗ひ
来。下。憊れ。翌の朝。まふ齋を東西を準備。徐に那裡へ到。毎更。急ぐ。要急と。豪
下。と。ま隆光又領を示談の趣を理す。翌の旦。開と定め。と答る。折ち庵漏より。小嘩

囉们が坐て。五十槌夫婦から對。費助代の俺们二名。左坐。右坐。炊事果す。卒
早飯と食事。と。を。隆光長總皆共侶ふ。と。て。獵場の迹の鳥自物。朝餌
啖。坐て。あける。悠而這日。隆光。小嘩囉们も疲勞せられ。早飯と果を。躊躇引。通
假寐。と。日の傾くを知。いふ。獨荷二郎。手。恥。せ。申。牌の左側。精好の袴。穿て。
純銅装の両刀を腰の跨へ。編笠深く戴き。正直が河備の宿所の頭を邁て観る。正直が
遊佐の城。如今還り。と。か。土兵们を暇を乞ひ。宿所を授く。還るも。若黨。時
起。此早かり。と。と。那這。徘徊。稍黃昏不亮。時候更。正直の第。到り。執接の
若黨が立て。迎く。却ひ。在下。東國の浪人木綿張荷二郎と。喚做もの。一大夏を
告訴の與對面を。希ん。恁。推參仕ひ。遠義相公の宣意を。と。ま若黨。訴り
多。且。玄関を留置。則。主。正直。夏任。と。告。余程。正直の遊佐の城。と。運
す。就盛。就盛。害。ら。の。言。酷。心。か。と。鬱。と。て。あり。あ。ま。見。せ。ゆ。及。む。

あづまちうわん。ふたりかふぐ
東國の浪人木綿張某申とある。密訴の與不推考と對面を請ふとすと、耳と
顰蹙をも何處かあらず。思ひ合ひようをみれど、一大事を告げんといれば、對面せざるべ
か。快々其頭の準備等よ。敦義们も告方致快々甚。とぞせば、若黨の阿と心の
もと。あともう。ちく。つくてゆふらうふトロ。げんえんと。あ。およそを走らるる
果も逡巡と立す。却説木綿張荷二郎。玄関を留め。等と約莫半晌許。熟接の
所。若黨をも知りぬて。多荷二郎から對ひ。脚邊來意の趣を。即便披露せ。及び。か
老爺對面を。とあり。卒遠方へと先立て。客房。案内され。當下楠正直。老黨
湯浅風爐八郎敦義と一個の小侍を相従す。その身は客室の上座。在り。菊燈臺
三隻。鉢四隻。鉢那遠。點。大蠟燭照宣りて。小心の体。見え。却荷二郎。執
接の若黨を引れて。席に入る。折中刀。扇子。次の間。閣。まか。膝行して。找。し。
正真火光。就。まく。どう。東國の浪人木綿張氏。荷二郎と。和太。一大事の
密訴。されば。薄暮。最も對面を。あ。姿を聽ん。何處か。と。ふトロ。まく。よ。らう
密訴と。あれ。薄暮。最も對面を。あ。姿を聽ん。何處か。と。ふトロ。まく。よ。らう

身を見え。國家の尊與貴所の與。見參を請ひ。か。を見を參り。一回目
何處か。優。然。先鞠。等。を。稟上。だ。こ。憚。う。も。左。右。を。退。け。が。
と。ま。正。直。領。き。る。趣。を。意。る。方。但。一。這。一。人。ハ。我。家。の。老。僕。を。素。よ。腹。心。の。ゆ
ゑ。斟。酌。小。及。ま。一。ち。餘。の。者。快。立。ね。と。れ。く。若。黨。小。侍。者。俱。や。次。の。間。退。け。荷。郎
元。首。送。り。や。膝。を。找。り。ま。密。訴。の。次。第。言。長。と。先。找。え。ま。稟。上。ん。在。下。原。を
ま。う。ぶ。一。す。れ。り。あ。ら。む。え。つ。鎌倉武。ま。て。管。領。持。氏。朝。臣。仕。ま。う。い。微。禄。の。難。色。き。み。う。聊。愆。る。と。あ。ま。う。身
暇。を。賜。り。ぬ。あ。地。所。親。志。を。不。則。妻。を。携。て。千。劍。破。村。を。尋。す。来。あ。ま。ふ。憑。む。樹。の。下。ふ
雨。を。漏。る。所。親。夫。婦。の。身。故。の。迹。絶。喪。を。使。う。が。進。退。其。首。か。谷。と。せ。木。を。折。る。入。の
媒。女。を。不。堪。と。即。那。村。の。鄉。士。も。辛。酸。電。次。隆。光。が。武。藝。の。弟。子。若。黨。を。う。い。よ。妻
共。宿。他。あ。仕。ま。在。月。来。を。繕。あ。誰。う。知。る。死。隆。光。素。う。強。人。の。頭。領。を。そ。が。生。徒。と
倡。あ。皆。悉。支。黨。を。然。り。れ。む。隆。光。石。川。郡。の。民。舍。を。犯。を。折。々。他。鄉。赴。ま。夜。偷

前々徑を更と做も。他所より這地を偷兒來矣。涉獵く必殺す。六地方の民不愛敵を
也。畢竟隆光が強人きと知りて、之を在下も亦おどり比美。他が恩更と知らむ。而他
只管酒と嗜み色と好矣。勢ひ任と無盡ふ我妻を奪て妾ふをうけ。恁而おも自隆光。
獨子雷九郎隆成が意旨不任一密謀を礙て貴所の姫を姑麿姫御寮の嵯峨院後山天山天賜り。千金を掠畧して支黨都三千餘名次の夜又八九莊院夜偷山天より
姑麿姫主僕の勇戦小ヨマ勢衆も殺断れ。隆光が獨子隆成竝山雲館奇峰五
出水挺頭三白鯛振平。曾反鼠坊八云と喚做る。宗徒の強人五六名小嘍囉廿許名件の
主僕小數を捕られて隆光へ瘞を肩負ひ逃て千劍破の宿所へ還れり。在下も那夜又將焉
へ。とされがれ病阿か推け辭ひ。余程の隆光が子并小股肱の火家を多く數させり。
太く恨そ讐言を復えと譲き折び校へ小嘍囉の天明く獨り來ゆるを以て那莊院の
奥深く潛ひ入り。姑麿姫御寮の祕措ひそ錦の旗菊水の旗南帝の敕書。楠三世の

遺墨をど二重箱と共に偷ゆ。而隆光が見せ。が隆光深く懼び心小あ。奸計を思ひ
起せ。祕密の魂胆の趣も恁々と下の小嘍囉们に耳示を。在下料を竊聞と。一五
十を具小知りぬとの奸計。箇様々と。瞞て半晌許。鄉向かの身が隆光が説薦する計
較と外吏ふと毫の漏ふ。峰の峯を添て耳告れ。正直敬驚且呆れ。すよ。問ひと欲する
時。荷二郎が文。那隆光が奸計。這一椿更のうち。貴所と並ぶ遊佐殿を。其の隣
計り課せ。姑麿姫御寮を討滅し。ち功を。遊佐の城へ輒入るを。是を。便宜を張
就盛主を。只一刀小刺殺。那城を奪ふ。兵權一。よび。又。河内を略して。お勢ひ。乘
を。大和を。敵を。從ふ。とも。大望を企す。最取憚り。あ言多。姑麿姫御寮を譲り。訴と。那身の
怨を復ふ。治をも。只是小事。就盛主を刺殺して。河内大和を。小入れ。計較。是
大事。在下。他が穢れ。行ひ。知らず。淫浪の便善。免故。權且寄宿を。おれ。も。這。潔白の
身。以虎狼の奴を。做果を。悄々地。お這。美を。訴。も。那強盜を。誅伐せれ。國家の。も。與。

忠告あべ我私處最愛の妻養集娶れる耳を垂る時至れり。とぞよつて越後へ推
參仕りぬ明日隆光が來を折力士を帷幕の内伏せた轟き捕へる。在下も亦便直を旋ら。隆光が俱そ来て一臂の方を勧めし稟も所相違わば身は天雷が震死れて永劫墮獄の苦難を受急々律令如律令と天か誓ひ地不盟の意衷他事を少くが正直連り駭嘆と其感
まことに大を傷ふ措せた扇を含みて歌杖かと膝を突立。雲霽時頭を傾せば却荷二郎が
も對ひて听くべし天晴忠告寔は國家の元與乳が賞禄を不依る。那隆光がみづ我
亦人の噂ふ坐知て義侠の武人と多ひ。ひや夜姫女の莊院を開く。那強人の頭領と件の
隆光が。神を祀り誰を亦よく知りをゆび。今宵密許の趣を遊佐氏へ通達共明日隆光が
我第へ来る折れ城内より隆光が手剣破の宿所へ緝捕の罠兵を向れ。支黨を搾捕り。あ
爰をひきれども荷二郎欲ひを考へ。死を計ひ才ある死の氣候も在下が妻長總へ取電
義那裏在。緝捕の大勢回折。あがも詞を添えず變顧と願ふ。とひと正直を失ふのみ心

安を以て通達を期せしも原是女流の手を暴くせざるもあらず。走るあらゆう。あら得す。
と諾ひ密談裏か。荷二郎別を告げ在下。這里で夜深き。隆光が疑れ更の障りをうけん
あもしとえ。明日見参。今かと。急下直留難て。まご意不儘。左寔は明日を緊要。快々退出せ
と身の暇を取せが。荷二郎意氣揚々と次の間へ退去。又若黨が送れ。初づ玄関より
手剣破村へ還り。松も楠正直。櫛尚が就盛不窘をれ。身の懈怠無罪を怕れ。胸から走り
は。料も剛才荷二郎が密訴。手と心花開け。左欽ひ。大々事。心懲る。速く就榮謀合せ
あもいづら。荷二郎が。云々と消息を書寫。老黨湯浅敦義が口状を宣示。一件の消息を齎
来。遊佐の城を遣は。火速の使をひれ。敦義主の正直が乗馬を借り。も跨り正義地の走
り。あ夜一更の比。小遊佐城へ騎着。正直の消息を就盛が呈。對面を請ひ木綿張
ナドウ。荷二郎が密訴。首尾を漏れ。就盛が演達と。明日隆光が宿所へ。多く緝捕の



星月傳第四回

第三十五回
ひ段工の巻
のちトメホ
見えうる

たるをめのちとぞあひ虎とあ
かどらうんけになつてゐる
荷二郎奸計賣隆光
かとひのゆをたくもわる

精兵を遣さうや。との隊合に向かへ就盛驚き且懼び。あ辛祖隆光奴豫せの風聲。小
笑るもやが義侠愛を武人をと憲くも思ひ。誰か知るだ金山不等丸強人をば綻
他謀れど。姑麿姫一個のえみが患よまる足矣。もあ奸計を乘せられ我倘他信用せ
禍蕭牆の下より起て國の乱を及べ。然るを密訴の者わざ積惡並説賞するのを。他公から
死を贈り。慢其許へ來。もん矢力量武藝は長す。も捕るの易を。是併李部殿正直が
武運ふ稱ひ意外の大幸。及び何莫欲れ。優美。隆光が宿所入我乃うち向む塵も遺走
捕る。少まぶやね。明日隆光を殺み逃した。這里多力士十名許。せ和老が隸て遣し。と緝捕の
急の帮助せ。在這義と眞の傳へ。亦と先敦義答示。七方土禁実檢使。あたま家臣と
擇。畢竟辛祖隆光。荷二郎が謀れ。遂に伏誅を。不景。這回不見。る。彌像を
看ても。猜矣。家詳ふ知んと。又這次の卷の首を解分るを聽ねが。

開卷驚奇俠客傳第四集卷之二終

